

## 編集室から

今年も後僅かになってしまいました。毎年暮れには「光陰矢のごとし」を思い出すのですが、これが正月になるとあっさり忘れてしまうのは、何故でしょうか。

さて、今年も素晴らしい出逢いの連続でした。中でも8月に東京の知人に連れられて参加した「一日一回笑顔をプレゼントする会」との出逢いはその後、多くの出逢いの入り口となりました。前月号に寄稿していただいた佐藤さん、今月号にご寄稿いただいたはせがわさんとのご縁は、ともにこの笑顔の会の御蔭です。

さらに、はせがわさんが毎月開催されているコミュニケーションアートの研修会にも参加して、これまた素晴らしい方々とのご縁を頂戴しました。今年ほど、ご縁が鎖のように次々とつながっていることを実感した年はありません。

お逢いする方々の素晴らしさと、そのご縁を思うに、つくづく有難いと感謝せずには居られません。同時に我が身の至らぬを見出し、身を引き締めております。

本ニュースは今月、通産108号です。数字は丁度人間の煩惱といわれる数。これまでの煩惱を流し去り、来年から新しい歩みを始める区切り、と感じています。

今月号の表紙写真は、毎年年末に造っている蓬莱（ほうらい）です。能登の漁師の家では、神棚の前垂のように飾ります。筆で書くのが一般的ですが、我が家では長く切絵となってます。デザインカッターを一刀一刀入れて透かし、背景に赤い紙を添えて出来上がり。越し方への感謝と来年への希望を胸に、家内と親戚の分も併せて取り組んでいます。

何かと気ぜわしい年末ですが、皆様どうぞ心豊かにお過ごしくださいますように。拝（は）



表紙写真から出来上がった蓬莱  
能登の漁師は、神棚に飾る

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。



2009/12  
(株)アスリック  
<http://www.neting.or.jp/usric>  
〒920-1167  
石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217  
Fax 076-233-7375  
Email [usric@neting.or.jp](mailto:usric@neting.or.jp)



2009/12  
(株)アスリック  
<http://www.neting.or.jp/usric>

## 師 走



一刀一刀真剣  
(切絵で造る蓬莱)  
by hama

## 寄稿『夢を叶える風船にのせて』

はせがわ 祐希

初めまして！私は、ドリーム工房 はせがわのはせがわ祐希と申します。私は、画家である父の絵と、父の絵に母が創作したお話をデザイン・プロデュースし、家族三人でコミュニケーション・アートの創作・発信活動を行っています。コミュニケーション・アートの創作とは、作品を通して「心と心の対話」「コミュニケーション」が生まれるアートです。このアートを通して、皆様の心のきずながあたたかくつながる事を目指し、活動しています。

さて季節が巡り、今年もまた一年が終わりを告げようとしています。

今年一年、皆様にとつてどんな一年でしたか？また来年一年はどんな年にしたいでしょうか？今、ふつと心で想った事や頭の中に浮かんだ事を、絵や言葉で描いてみてはいかがでしょうか？絵や言葉で表現する事は、普段あまりしない事かもしれませんが、イメージを絵や言葉として形にすると、よりイメージが具体的に明瞭になります。またその絵や言葉をご家族や大切な方、皆様で描いて共有するとともに素敵ですね！今年一

年の一瞬一瞬がいつまでも記憶の中で輝き、来年がますます素晴らしい一年になる事でしょう。

私達が発信しているコミュニケーション・アートに、“星のように輝く人”、「ストーリーマン」の作品の世界があります。ストーリーマンは、“地球に愛を、みんなに夢を、命あるものすべてに輝きを”と願い、「希望」「元氣」「勇氣」「夢」「愛」「友情」「未来」「信頼」「幸せ」の夢を叶える九つの風船を届ける旅をしています。

今回、紙面を通して出逢えた縁に感謝を込めて。皆様の大切な夢が叶いますように！来年も笑顔に溢れた日々でありますように！ストーリーマンの夢を叶える九つの風船を贈ります。もし皆様の心に風船が届いたら、今度は皆様の大切な方へ想いを込めて、風船を届けていただけたら嬉しいです。いつか皆様にお会いできる日を、ストーリーマンと共に楽しみにしています！。



【プロフィール】

（はせがわ ゆき）ドリーム工房 はせがわの代表兼プロデューサーとして、両親の創作した心と心をつなぐ絵とお話の作品「コミュニケーション・アート」の創作・発信活動を、家族3人で行っている。

## 濱のつばやき 『百姓のススメ』

この頃、時間を見つけては奥山の梅ノ木畑に出掛けている。減反した田に十数年前、岳父が植えていた。岳父が難病を患い、しばらく放置同然になっていた。生命力に溢れる梅は、思いつきり枝を伸ばし、あるいはほとんどないところから枝を生やして大変な混み具合。手鋸と剪定鋏でコツコツと払ってゆく。

ある時、家内が払った枝の再利用法は無いかと言い出した。早速ネットで調べてみると、驚いたことに枝をそのまま樹下に放置すると、木に病気が移るといふ。慌てて放置していた枝を集めると、軽トララック2台分にもなった。薪ストーブがあれば、伐採した竹や、枝は料になる。温暖化対策と併せて一石三鳥なのだが、残念ながら未だ無く、別の畑で燃やすことになった。

田舎暮らしのブームは今も続いているのだろうか。ひところ、盛んにUJターナドとか、「第二の人生を田舎で農業を」といった言葉が聞かれた。

田舎暮らしは意外に難しいと指摘されることがある。「通説」では、ムラ社会の閉鎖性、農業の厳しさを因とするようだが、むしろ別な処にあると思う。

「お百姓さん」というと、農家の事を指すようである。ところが、これが田舎暮らしに対する誤認を象徴しているのではないか。

日本人の苗字は、そのルーツを探ると二つの源になるといふ。一つは氏。一つは姓。氏は神主の系統らしい。かつて日本人には苗字が無かった。奈良・飛鳥時代、大陸からさまざまな技術を持つ職人を迎え入れた。その時、大陸人が持っていた苗字が、そのままその職業を表したという。これが姓の源説である。この説が正しいとすると、百姓と

は百の職業ができる人、と解釈できないか。

田舎暮らしは、農業だけができれば事足りるものではない。山の手入れ、海の漁といった一次産業をはじめ、道普請（農道整備）は土木作業、かつての萱葺きは建築。冬季の細工仕事は工芸…。田舎で豊かに暮らすために身に付けていた数々の技と術は、とても一つの職業観で語れない。

一方、現代都会での暮らしはどうか。サラリーマンという職業は、一生掛かって一姓になる働き方ではなからうか。会社が倒れあるいは失業するとゼロ姓になってしまう。百姓は、一つくらいなくなっても残りが多い。この絶対的安心感の差は如何ともし難い。

人生の成功尺度は、金か、社会的地位か、それら以外の全く別の何かなのか。地域社会の幸せを計画する業務に就いている我々には永い問いである。

先日、十数年来の友人を我が家にお招きした。義母が畑で収穫したばかりの野菜。親戚の網元から届いた魚介類。どれも高価ではないが、活きの良い素材に勝るものは無い。それが判る彼から絶賛いただいた。自給農家。楽しみで漁もできる。山の幸も安心して採れる。その上で、全国各地の友人と地域や明日を語る。これ以上の幸福があるだろうか。

不況下、社員のアルバイトを公認する企業が増加している。サラリーマンが働き方の大部分を占めるようになった歴史は、我が国では高度成長期以降であって、永い歴史の中では一瞬の事ではない。

正社員とアルバイトの兼業では、本質的解決に程遠い。より自らを表現・向上させられる複数の仕事を見出し、多様な愉しみ・幸福感とともに複数の収入源を持つ働き方。その扉が、田舎暮らしに限らず、今再び開かれようとしているのかも知れない。



湯沢市は、秋田県南東部に位置する人口5万3,401人(2009年10月末現在、住民基本台帳)の都市である。現在の湯沢市は2005年に旧湯沢市、雄勝郡雄勝町、稲川町、皆瀬村が合併して誕生した。歴史をみると、湯沢は羽州街道の宿場町、佐竹南家の城下町、そして院内銀山を背後に抱え栄え、明治以降も、奥羽本線、国道13号という交通軸上にあることから秋田県南における大曲、横手と並ぶ中心地として発展してきた。しかし、鉄道では1992年の山形新幹線(福島～山形)開業以降、交通軸上から外れてしまった。

湯沢の中心市街地であるが、駅前から駅前通り、そして柳町、大町、中央通と4つの商店街が存在する。2004年の商業統計によると、これらの商店街が市商業に占める比率は、年間商品販売額が14.2%、売場面積が18.9%に過ぎない。湯沢も郊外のロードサイドに商業の中心が移っているが、TMOゆざわの活動や商店街の秋のイベントである「たんせ市」の開催など、厳しい環境の下、秋田県の都市のなかでは比較的中心商店街に動きがある。

湯沢市公式ホームページ「湯沢市の観光(概略)」において観光資源としては、旧雄勝町、稲川町、皆瀬村の資源や、夏の七夕絵どうろうまつり、冬の犬っこまつりなどのお祭りがあげられているが、中心市街地における観光資源・施設は示されていないことにも表れているように、湯沢市中心市街地を観光するというイメージはない。

しかしながら、その中心市街地の資源を再発見して観光振興、地域活性化につなげようという動きが出てきた。湯沢駅から徒歩10分のところに湯沢市役所があり付近には湯沢城址、日本名水百選に選ばれた湧水の力水がある。ここは湧出量が豊富で水汲みに訪れる人も多い。市役所周辺は敷地が大きな家が多くかつて佐竹家の家臣宅であったことがうかがえる。1891年竣工の洋風建築である旧雄勝郡会議事堂記念館では、2008年9月からまちづくりに取り組む「NPO法人まちおこし結っこ」がここを拠点として活動を開始した。

また、湯沢はかつて「東北の灘」と言われ、いまま秋田県内でも最も日本酒の生産量が多い地域である。現在、見学が可能となっている酒蔵は両関酒造、秋田銘醸(爛漫)、木村酒造の3軒があり、いずれも湯沢駅から徒歩10～15分程度である。

これらの資源だけでも十分に1日まちなか観光ができるが、2008年に「湯沢まちなか歴史資源マップ」が作成され、これまであまり観光資源として見られてこなかった建築物、小路などが示された。

湯沢市中心市街地も多くの地方都市と同様に賑わいが失われ衰退傾向にあるなか、これらの観光資源と商店街を一体として魅力あるまちづくりに取り組んでいる。秋田県内でいえば仙北市角館町のような観光都市とは異なる、ごく普通の地方小都市のまちなか観光として、今後の展開に注目したい。

## 相続について

### 遺留分を侵害されたとき

今回のケースは、財産のすべてを相続させるという遺言状があったというものです。

### Case Study

中野裕子さん(仮名)は兄、弟の3人兄妹です。

先日、父親が亡くなり、その葬儀の後に遺言状が見つかりました。

その内容は、財産のすべてを長男裕一郎に相続させるというものでした。

相続人は3人兄妹だけです。当然中野さんにも弟さんにも遺留分があるはずですが、どのような手続きをすればよいのかわからない、というものでした。

### Answer

この場合、中野さんと弟さんにはそれぞれ6分の1の遺留分がありますので、それぞれが兄裕一郎さんに遺留分減殺請求をおこなうことができます。

請求の方式には特に決まりはなく、意思表示をすればよいということになっています。裕一郎さんに遺産の6分の1を渡してほしいという意思を伝えたくて、話し合いをして遺産の一部をもらうか、相当額の金銭を支払ってもらいます。

しかし、裕一郎さんがノラリクラリとした態度で、話をはぐらかすような場合や、はっきりした意思表示が示されない場合は、内容証明郵便を出しておくことをお勧めします。

減殺請求は、相続発生後(被相続人の死亡後)、遺留分の侵害を知ってから1年以内に行わないと請求する権利が失効してしまいます。あいまいなままに時間が経過して、気づいたらもう1年経ってしまい、言った言わないという水掛け論のようなことにならないためにも、請求したという証拠を残しておくことがとても重要です。

それでも、減殺請求に応じないときには、家庭裁判所に調停の申し立てを行うことになります。

なお、減殺請求権を行使するかしないかは自由です。

たとえば、弟さんは請求しないという場合、足並みをそろえる必要はありません。裕子さん一人で減殺請求権を行使すればよいのです。

ただ、相続の手続きには必ずタイムリミットがあるということを覚えておいてください。

「さてこれからは商いと、席改めて、ういろうは拙者親方と申しますは、お立会いの中にはご存知の方もおりましようが、」

この「ういろう」という言葉をワードで打つと「外郎」と出てくる。

さきの口上を市川團十郎が、歌舞伎十八番の内「外郎売」で、続いて「そもそも妙薬のその謂れ、昔、陳の国の唐人、外郎といえる者、、、」と妙薬「外郎」の故事来歴から効能を身振り手振りを交えて実に流暢にしゃべりだす。

「そして一粒口に含めば、さらに舌が回りだし立て板に水のごとくに早口言葉を次々と披露していく。

さて、この「ういろう」、小田原に代々続く薬「透頂香（とうらんこう）ういろう」のことである。

江戸時代、二代目市川團十郎が痰と咳の持病で役者生命が危ぶまれた時、この「ういろう」により全快した。これに感激した團十郎が創作・上演したのが、歌舞伎十八番「外郎」である。

この妙薬を中国から伝えたのが礼部員外郎（れいぶいんがいろう）という官職名のついた陳宗敬であり、後に日本に帰化し「外郎」を名乗ったことから代が重ねられてい行った。

その子孫に国立劇場11月歌舞伎公演の特別席の招待券を頂戴し、いそいそと出かけた。

文楽、狂言、農村歌舞伎をこれまで見てきたが、時折意識がなくなるので大丈夫かなあと心配だった。



でも市川團十郎に坂田藤十郎、小生でも名前を知っている歌舞伎役者が出演するとあっちゃん見ぬわけにはゆかない。

「外郎売」、「傾城反魂香」、三幕目には「大津絵道成寺」ここでは御歳78歳の藤十郎が、藤娘、鷹匠、座頭、船頭、鬼の五役をこなす。

ついウトウトとした隙、一瞬に衣装は変わりその場面を見失ったことを悔いた。



舞台、衣装のあでやかさ、幕が上がると思いきや下に落として幕開け、

様々なサプライズが舞台にある。

何を言っているのかわからない向きにはしっかり「イヤホンガイド」のサポートがある。この解説が結構面白い。

そもそも歌舞伎とは？という人には、伝統芸能情報館（無料）が用意されていて、開演前一時間ほど予習されるといい。

12月公演はいよいよ伊豆修善寺を舞台にする「修禅寺物語」、演じるは中村吉右衛門。

12月11,22日には「社会人のための歌舞伎入門」もある。価格も特別席12,000円から3等席1,500円まで用意されている。

こうした努力あってか会場は結構若い人が多い。



皆様方も是非、国立劇場に歌舞伎見物に参じようではありませんか！